

平成21年度 学校評価【自己評価】

米子北高等学校

中期目標	今年度の重点目標
<p>1. 基礎学習の充実 2. 規律の内面化と外面化 3. ボランティア精神の喚起</p>	<p>・学校評価制度の実質的な導入。(「自己評価」段階から「外部評価」段階へ) ・全教職員で生徒に関わる。(特に服装指導に力を入れる) ・教員の研修・学び合い。(研修成果の共有化。授業の公開) ・秩序ある勤務。(チャイムと同時に挨拶を交わし、授業開始等)</p>

担当 分掌	年度当初		評価結果		
	現 状	目 標	経過・達成状況	評価	
総務部	<p>(1) 生徒募集について ① 米子北高の良い点のアピールが不十分 ② パンフレットに載せる写真が少ない ③ 募集アドバイザーの積極的な活用 (2) 教育振興会について ④ 役員の手が足りない ⑤ 活動への積極的な参加が少ない (3) 校内行事について ⑥ 入学式・卒業式が長くなる傾向がある ⑦ 式のマンネリ化がないか</p>	<p>①教育振興会活動の活性化。 ②生徒募集活動に一層力をいれる。</p>	<p>①事故があったことで、いろんな行事を自粛・延期した。そのような背景もあり、例年になく振興会活動が目立たなかった。また、今年は1年評議員が少なく、1年の参加者も少なかった。 ②早くからパンフレットの作成にもとりかかり、順調な募集活動だった。中学校へのアプローチも問題なく進んだ。</p>	A	<p>①振興会の活性化について、学校側からの積極的なアプローチと働きかけが必要。 ②生徒募集活動について、米子北高を中学生とその保護者へ、一層浸透させることを考えていく。生徒1人ひとりを大切にしているというを中学校に理解していただくためにも、生徒問題を積極的に出身校へ情報を提供していき、協力を仰ぐ。</p>
教務部	<p>(1)新学習指導要領をふまえた教育課程の審議・検討 (2)基礎学力の充実を図る (3)読書の推進を図る</p>	<p>①新学習指導要領の先行実施状況の情報収集・整理。 ②基礎学力の養成。</p>	<p>①文科省から出た指導要領の冊子を全職員に配布し、新教育課程の実施に向けた年次の計画を理解してもらった。また、先行実施する理科・数学については県の説明会に参加したり、入試問題の作成にあたっては先行実施している中学校の実施状況等の情報を収集し作問に生かした。 ②比較検討するデータがなく学力を客観的に評価できないが、3年生の成績会議において基礎科目の欠点者が出なかったことは、これまでの基礎学力の養成に向けたセミナーの取り組みや総合選択科目の充実などによる積み重ねの成果といえる。</p>	B	<p>①新学習指導要領を踏まえた新教育課程の作成と、24年度までに教員全員が説明会に参加できるように年次計画を立てる。また、中学校での実施状況等の情報が一元化出来るような仕組みをつくる。 ②基礎学力セミナーのあり方を検証し、より充実した取り組みになるようにする。</p>
進路指導部	<p>(1)自らの将来像に対する意識が浅く、職業や学問分野に関する知識が乏しい。 (2)基礎学力不足のために自分の進路に自信が持てない生徒に対する対策が十分ではない。 (3)国立大学を中心とした難関大学への合格が少ない。(昨年度、国立大学合格9名)</p>	<p>①結果を出すための進路指導計画の作成と実践。 ②就職セミナー、進学セミナーの充実。</p>	<p>①コースの目標に応じた進路意識向上策を実践している。生徒にとって取り組みやすい多様な模擬試験を導入した。 ②年度当初に各セミナーの年間計画を発表し、学年団との連携を深めるようにした。進路意識向上に適した教材の開拓・作成が必要である。</p>	B	<p>①生徒の実態にあった指導ができたことは良かった。基礎学力の向上にどう結びつけるかが課題。 ②就職・進学に必要な実力を身につけるための授業としてのセミナーの位置づけができた。個々の進路指導に当たられる担任の先生との連携が課題。</p>
生徒指導	<p>(1)新しい制服になって2年目、地域の方にも認知されつつあるが、少数だが着こなし方が悪く(特に、丈の短いスカート)、学校の評価を落としている。 (2)外部・内部の苦情・連絡に対応が遅れがちである。</p>	<p>①生徒指導部が前面にでて指導する。 ②規範意識を育む。</p>	<p>毎朝部員が2ヶ所まで門前指導を行い、挨拶とともに服装のチェックを行う。また、クラスに入り、服装指導を行い、成果が出てきた。1年を通し、継続的な指導により、生徒の規範意識も服装を直すところから以前よりは高くなりつつある。</p>	A	<p>校内での服装は概ね良くなり、違反もほとんど無くなったが、放課後の校外での違反を耳にする。終礼後の門前も考えていかないといけない。また、一層の徹底をはかるためには、全職員の協力をもっと強固にしていかなければいけない。</p>
生徒会部	<p>(1)近年、生徒会に興味を持ち、積極的に参加したいという生徒は減少傾向にある。また、執行部の活動も教員主導で生徒達が積極的に行事を企画立案に参加し、実施まで責任をもって活動することが出来ていない。 (2)生徒の減少に伴い、部活動の部員がなかなか集まらない傾向にある。</p>	<p>①学校祭、体育大会等への生徒の主体的な参加。 ②ボランティア活動への積極的な参加。</p>	<p>①今年度は学校祭の実行委員長を生徒会執行部員に任せる試みをした(文化祭一生徒会長、体育祭一体育部長)。しかしながら、初めての試みでもあり、諸先生方の協力によって、やっと出来た。 ②7月の皆生トライアスロンに約70名のボランティアが参加した。本校は初回から29年間ボランティアに参加している。今年度は硬式野球の試合とトライアスロンの日が重なり苦労した。また、部活を中心に通学路や近隣のゴミ拾いなどをおこなった。</p>	B	<p>①年度の学校祭や体育大会は、よりいっそう生徒が主体となっておこなえるように企画・準備を進めさせたいと思う。 ②ボランティア活動については、皆生トライアスロンはもとより、生徒会企画の活動をおこないたい。</p>
情報システム部	<p>(1)当分掌の作業は、様々な部署・分掌の下請作業的な側面があり、責任や作業分担といった面での割り振りに曖昧な部分がある。 (2)インターネットの本校Webページ(ホームページ)による情報発信がタイムリーでなく活用が十分でない。</p>	<p>①正確な情報処理(各部署・分掌と業務分担の確認をし、マニュアル化する)。 ②ホームページの迅速な更新。</p>	<p>①に対して 生徒情報管理、成績管理、入試統計処理などで、作業処理手順の確認や必要印刷帳票の洗い出しをおこなった。 ただし、年度末から年度初めにかけての処理が、未着手で残っている。 ②に対して ファイル作成が出来ている更新依頼に対しては出来る限り迅速に対応した。</p>	B	<p>②について HP更新用の原稿ファイルを情報システム部で作成しなければならぬ場合には、必要データの収集や加工に手間が掛かり、当部の重荷となっている。</p>
環境保健部	<p>(1)生徒の健康(心身)の保持増進と安全管理上の意識の向上 ①保健室利用について：安易な利用が目立って多い。再利用者が多い。 ②防災について：防災や救命意識に個人差がある。 ③部活動等について：顧問の安全管理意識に個人差がある。 (2)減ゴミ対策・用具類の管理に対する意識の向上 ①ゴミ袋・トイレペーパーの使用量が多い。 ②掃除用具の管理が徹底していない。 ③リサイクル意識に個人差がある。</p>	<p>①安全教育の徹底。 ②新型インフルエンザ対策。</p>	<p>①防災訓練…春(5/26)と秋(10/20)の2回、学校全体で実施した。救命講習会…10月に第二学年生徒227名が「普通救命講習Ⅰ」を実施した。また、並行して本校職員による「普通救命講習Ⅰ」を実施し37名が受講した。(平成20年度20名、19年度7名) ②インフルエンザの流行に備え、マスクの備蓄、手洗い場のハンドソープ・昇降の手指消毒用アルコールを設置し予防に努めた。 *インフルエンザ出席停止者126名(2/28現在) *インフルエンザによる学級閉鎖7クラス。</p>	A	<p>①安全教育意識の向上を図る。(生徒・職員)救命講習については、職員も講習会参加を充実させる。(学校全体での取り組み) ②マスク・手指消毒用アルコール・ハンドソープの備蓄を継続し今後の対応に備える。</p>
人権教育部	<p>(1)生徒と教員の間で明るく、元気の挨拶が交わされ、学校が明るい雰囲気になってきている。 一人ひとりの生徒が自分の学力の目標を達成する援助、学習内容を定着させる援助をしている。 (2)①校内研修をテスト期間中に実施しているが、今一つ参加者が少ない。 (3)秋に実施予定の教育振興会主催「人権コン」に教員も参加。練習中である。</p>	<p>①教職員研修の充実に努め、人権意識の高揚をはかる。 ②情報や啓発資料の提供をおこなう。</p>	<p>①校内教職員研修会を2回実施した。各研修会、研究会の参加には人権教育部が積極的に参加し、「Human Rights」で報告した。また、人権教育部で購入した本の内容も載せた。 ②普段の授業の中で、公開授業として人権教育の取り組みをおこなった。一人ひとりの生徒を大切に教育の推進として、全教員に「学級経営、授業指導、生徒指導」の具体的実践項目を記入してもらった。年度末には評価・反省も記入して提出。</p>	A	<p>○教員が研修会にもっと参加できる環境づくり。一人ひとりの生徒を大切に教育のさらなる充実。○保護者と連携を深め、講演会などにも多く参加してもらえるような工夫や啓発に努める。</p>
看護部	<p>(1)5年間という期間にわたって、目的意識や学習意欲の継続が難しい。 (2)基礎学力や看護の基礎的知識・技術の習得が十分でない。 (3)日常生活体験に乏しく、コミュニケーションがとれず、臨床実習でつまづき生徒がいる。</p>	<p>①目的意識・学習意欲の高揚・継続。 ②基礎的・専門的技術の習得。</p>	<p>①ほとんどの生徒が看護に興味を持ち、放課後も自主的に自習・実習をおこなっているが、目的意識を持って入学してこない生徒への対応を考えることが必要である。 ②各学年小テスト実施。 チェックリストを用いて放課後グループで実習練習実施。</p>	B	<p>多くの生徒は看護師という職業につくという目的がはっきりしているが、一部自覚のない生徒がいる。現在行っている技術を習得するための校内実習チェックリストを、看護教育のあり方検討会報告による「臨地実習において看護学生が行う基本的な看護水準」とあわせながら各学年の到達度を明確化し、生徒の目的、目標意識を高めていくようにする。</p>
事務部	<p>(1)経費等の節減に努める (2)迅速な対応(窓口・電話等)に努める</p>	<p>①月末点検を実施し、成果を把握する。 ②部内の意志統一をはかり、向上心を養う。</p>	<p>①について、分担する業務の中で、一部(授業料業務)は、毎月月初めに月末の結果報告をまとめて、滞納状況等を把握した。 ②について、結果的に、会議をもって話し合う時間が取れなかったこともあり、慣行通りの業務体制で終わったような気がする。今後は、それぞれの業務の交流を図り、ある程度の知識を養うことが肝要に思われる。</p>	B	<p>業務分担当を、原則担当者1名で行わせているが、担当者不在(病欠等も含め)の時の対応がスムーズになるように、努めたい。そのためには、比較的時間に余裕がある時期(夏季生徒休業中等)に業務の研修会を開催していきたい。</p>

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:まだ不十分 D:目標・方策の見直し